

要望書
提出
声を
お聞かせ
下さい

8月9日、千葉市に平成29年度予算編成および障害福祉計画に関する要望書を提出し回答をいただきました。

1 平成29年度までに
整備される地域生活
支援拠点について

回答↓既存の社会資源を活用した面的整備を基本とし、必要な機能を有する施設整備を行っていく方針で検討中。平成29年度にはモデル事業の実施を検討しています。

2 グループホーム等
運営費補助金の増額

回答↓グループホームの安定した運営を支援するため、県と同水準にすべく予算要望を行って参ります。

3 高齢化する家族
同居への支援体制の
強化

回答↓サービス等利用計画を活用することがご本人、ご家族の支援に重要であり、希望される生活の実現に向け、モニタリング等を通じて、定期的にご本人やご家族の暮らしを見守り、安心した地域での暮らしのためのサービスにつなげて参ります。

4 通所施設利用者の
継続的な送迎サービスの
強化

回答↓継続的な送迎を可能とするため、十分な報酬とするよう国に要望していく。また、福祉タクシーの利用範囲については、今年度実施する実態調査等をもとに、他の送迎サービスと合わせ検討していく。ただし、本市の財政状況から単純に利用範囲を拡大することは、現状困難であることをご理解下さい。

5 相談支援体制整備
と相談支援専門員の
増員

回答↓計画相談支援事業所数は、24年度末49か所から27年度末77か所、障害福祉サービス支援決定者数に対する計画相談作成者数は24年度末33%から27年度末では72.4%と大幅に改善されています。

◆東日本大震災で福島の実家は全壊しました。数年前、ふと思い立ってグループで検索。そこにはあの懐かしい家がまだ建っていました。子供の頃は嫌だった年季の入った家(笑)、もっと写真を撮っておけばよかったな。現在は雑草だらけの更地になっています。(福元 真由見)

◆大声を出しても安心な山歩きを楽しんでいた我が家。思惑通りにならず最近、山より街に向かう息子の足。ぶら散歩&美味しいお店探しに興味深々。街歩きのパズルを見ながらニヤニヤの疑似体験で予習も抜かりない!? さあ週末どこ行こう。(大塚 恵美)

地域のふれあい
まつりに初参加
でい・まさご・でい・まさご式番館

10月15、16日、第36回真砂コミュニティセンターふれあいまつりに、「でい・まさご」「でい・まさご式番館」が出店しました。

当日は天候に恵まれ、日差しが少し強かったのですが、時より吹く風が心地よく感じられました。

会場内では、もぎ店、フリーマーケットや、吹奏楽などのイベント、サークルの展示もあり、ミニ電車やゲームコーナーは子どもで盛り上がっていました。

「でい・まさご」、「でい・まさご式番館」の焼きそば、豚くしは大人気。お昼時にはお客さんの列ができ、お店に立つ利用者さん、家族の方々、支援者さんは大忙しでした。

10月15日に行われたハローでい・さくも大勢の方でにぎわい、大盛況な一日になりました。地域の皆様に感謝申し上げます。

◆東日本大震災で福島の実家は全壊しました。数年前、ふと思い立ってグループで検索。そこにはあの懐かしい家がまだ建っていました。子供の頃は嫌だった年季の入った家(笑)、もっと写真を撮っておけばよかったな。現在は雑草だらけの更地になっています。(福元 真由見)

◆大声を出しても安心な山歩きを楽しんでいた我が家。思惑通りにならず最近、山より街に向かう息子の足。ぶら散歩&美味しいお店探しに興味深々。街歩きのパズルを見ながらニヤニヤの疑似体験で予習も抜かりない!? さあ週末どこ行こう。(大塚 恵美)

パラスポーツ
応援イベント

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは千葉市も会場になることから、リオパラリンピックの話題を契機に、パラスポーツ体験コーナーを設け、ゲストのトーク、障害者雇用の啓発・助機器及び関連産業の活動、取り組みを紹介するイベントが、9月17日〜19日の3日間、海浜幕張駅前で開催されました。千葉市コーナーでは障害者雇用啓発のパネルを展示し、同内容のチラシを配布。その配布を育成会にお願いしたいとの依頼を受けて、はたらく委員会のメンバー親子が街頭に立ち、道行く人たちに配布しました。初めは恥ずかしくて渡せなかったり、受け取ってもらえず落ち込んだりと悪戦苦闘しましたが、次第に慣れてスムーズに渡せるようになりました。全員がチャラシ配りの仕事は難しいということを実感しました。(会長 島田 貴美代)

手作り品も販売しました

育成会のうごき		7月~10月
7月2・3日	第3回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会(横浜) [本誌P3]	
	第50回関東甲信越ブロック大会(横浜)	
5・8・13日	各区おしゃべり会	
11日	気功講習会(文化部)	
26日	千葉市障害者社会福祉参加推進協議会	
8月9日	千葉市へ要望書提出 [本誌P1]	
27日	コミュニケーションボード説明会	
9月2・9・16日	各区おしゃべり会	
17・18・19日	リオパラリンピック関連イベント [本誌P4]	
8日	千葉県手をつなぐ育成会 県大会	
13日	大宮学園ワークショップ	
20日	施設見学会 でい・まさご、でい・まさご式番館	
27日	「親なきあと」研修会 [本誌P2]	
10月1日	ワークホームまつり	
3・14・19日	各区おしゃべり会	
13日	拠点福祉避難所運営訓練 [本誌P3]	
15日	ハローでい・さく2016 (ソーイング部出店)	
16日	でい・まさご、でい・まさご式番館地域ふれあいまつり (本誌P4)	
19・20・21日	知的障害者への理解の啓発、研修会参加(千葉中央警察署)	
25日	誕生日ハガキ作成	
27日	アロマ講習会(文化部)	

「親なきあと」 「親あるあいだ」の準備 Q & A

研修会



渡 辺 伸 氏

9月27日、「親なきあと」相談室主宰で行政書士の渡部伸氏をお招きして、い・さくさべにて研修会を開催しました。参加者109人と、とても関心の高い研修会でしたので、研修内容をポイント毎にご紹介します。

Q 本人がお金で困らない準備、まずはどのようなはじめたらよいですか？

A. まず本人の収入と支出を項目毎に把握します。収入は障害基礎年金、就労収入や工賃などです。支出は、必ず発生する固定費（健康保険・介護保険・税金・光熱費・家賃・通信費・医療費など）を確認します。

Q 本人にお金を残すためにやっておくことはなんですか？

A. まず、本人にどのくらい残したいのか、本人が金銭をどのように理解できているかを確認します。金銭管理が難しい場合、相続が発生した時点で後見人が必要になる可能性があります。また遺言の内容によっては、相続時に相続遺留分が発生する場合があり、これは権利を訴えて行使しなければなりません。これらの必要がある場合、事前に後見制度や任意後見制度を考慮し

ておくのも一手です。本人にどのくらい残したいかは家族と良く相談し、遺言書に残しておくの良いでしょう。

Q 遺言はなぜ必要？書き方は？他に文書で残した方が良いものは？

A. 亡くなった人の口座は通常凍結されますが、当座のお金に困った時に遺言書があれば早く引き出せます。障害のあるわが子に多めのお金を残したい時にも効果を発揮します（あくまでも家族で事前に話し合い、納得しておくことが重要です）。

遺言書は、自筆証書遺言と公正証書遺言があります。公正証書遺言は公証役場で記載保管し、その場で証人確認と費用が発生します。

自筆証書遺言は、全文をボールペンか万年筆で自筆し、遺言書作成の日付と署名と押印（シャチハタ不可）が必要です。遺言執行人を決めておき、遺

言書に記載しておくこと相続協議時に便利です。そして、「ライフスタイルカルテ」やエンディングノートなど、本人の支援に役立つ記録も一緒に残しましょう。（千葉市育成会では「この子の記録」というライフスタイルカルテにあたる記録用ファイルがあります。）

生前三点契約書（任意後見契約書・財産管理等の「委任契約書」、子供に過度な負担をかけないための「尊厳死の宣言書」）については、必要に合わせて準備しておくの良いでしょう。

Q 最近話題の信託後見は現在どのような状況でしょうか。

A. 福祉型信託制度はまだ人材不足で税制も未整備のこれからの制度ですが、少しずつ実現可能な仕組みも出始めています。信頼できる人を受取人にして親の財産を子に活用してもらう家族信託、

生命保険信託（一部の生保のみ）等がありま
す。小口信託も各信託銀行で対応しています。



部屋いっぱいの参加者

Q いつ頃、後見制度の申請や一人暮らしの決断をしたらよいですか？

A. 後見制度は、元気に子供の面倒をまだ見られるという自信があれば、しばらく待つのも選択肢の一つです。ただし、親の健康不安が出た時には後見制度や任意後見制度を検討しましょう。

任意後見は、親が元気なうちに、将来自分が衰えた時に備えて任意後見人を決めて契約する制度で、契約内容は当事者間で設定可能です。専門職後見人としては、司法書士、弁護士が多く、社会福祉士やNPO法人による法人後見などもあります。親族が後見人になった場合にも、後見監督人がつく場合があります。一人暮らしは、親と子の覚悟が決まった時ではないでしょうか。

ショートステイ等は利用しておくの良いでしょう。



また、親自身が元気なうちの社会参加は大事で、親の会や趣味のサークル、ボランティア活動や地域活動等でネットワークづくりをすることで、周囲が異変に気づきやすいとの事でした。

障害のあるわが子が親なきあと、少しでも豊かな生活を送れることが親の願いです。そのためにはも本人、家族にとって最良の方法を考えていかなければと思いました。（広報部 前田 陽子）

第三回 全国大会開催

第三回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会が7月2、3日神奈川で行なわれました。4つの分科会とも充実した内容でしたので、ご報告いたします。

①大切な命を授かって生まれる
ゝ家族支援と本人支援のバランスを考えるゝ

生きにくいのは障害のある人とその家族だけなのか、家族の責任はどこまでなのか、幸せの実感はどうやったら掴めるのかを皆で考えた後、親の経験、制度の現状と今後、支援の現場で考えてきたことの提言があり、障害のある子の子育てには、親にも心のケアが必要な事、親離れ・子離れとはお互いの人格・人生を尊重し合うということ、家族の支援と本人の支援のニーズは必ずしも一致せず、そのバランスを考えて、家族、本人、支援者の誰もが孤立せずみんなががんばってお互いのエンパワメントを高める、といったお話しがありました。（副会長 諸星 勝代）

②インクルーシブな社会で育つ
ゝ権利条約から読み解く教育社会参加ゝ

又村あい氏↓障害者権利条約では、障害のある人の教育について多くの記述がある。「インクルーシブ」と



久保 厚子大会会長の挨拶

いう視点は学校教育だけでなく、社会に出て就労する場面でも求められる。シンポジウムでは、田中みか氏↓神奈川県におけるインクルーシブ教育の在り方と公立高校への「特別支援学級」設置の動き。菊地一文氏↓知的・発達障害のある子どもの可能性を広げるキャリア教育のあり方。久保寺一男氏↓「就労継続支援A型」事業の特徴と課題。藤尾健二氏↓仕事と暮らしを支える「就業・生活支援センター」の役割について、それぞれお話がありました。（会長 島田 貴美代）

③自分らしさを発揮して生きる

ゝ可能性を引き出す支援の実践ゝ

障害者で結成されたバンド・「サルサガムテープ」を率いる、かしわ哲氏は、楽しみを一緒に作り出したいと、バンド活動を福祉業務として仕事にする事業所を設立。studioCOOCA施設長の関根幹司氏は、障害は乗り越えるのではなく、超個性として捉え、好きなこと得意なことを仕事にする

アートの作業所を創設。枠組みに当てはまらない人たちの支援活動に取り組む牧野賢一氏は、言葉にならないその人の「本当の声」に静かに寄り添い続けることが大事と、三氏共に、障害者の将来の夢の選択肢を広げる環境を作り出すことが支援者の役割と話されました。（副会長 土戸 博子）

④成人後の人生を自立的に暮らす

ゝ制度を利用する際の意思決定支援のあり方ゝ

上智大教授大塚晃氏は、総合支援法により、障害者も「自分で自分の人生を決める」ことが明確化された。意思決定支援とは、広い意味での社会的障壁の除去のための必要かつ合理的な配

拠点的福祉避難所 運営訓練に参加

昨年に引き続き10月13日、植草学園短期大学にて、千葉市と植草学園共同の拠点的福祉避難所運営訓練が行われました。当育成会より本人と保護者支援者が参加しました。

訓練では、指定避難所としてのフリースペースに集合、受付後、順番に拠点的福祉避難所へ移動しました。避難所居室は、床にシートとエアーマット、毛布も用意され、段ボールの仕切りも造っていただいていたました。プライバシーに配慮され、立てば顔を合わせるができる心強い環境です。食



体温・血圧・脈拍をチェック